

京都大学薬学部 SGD 演習レポート
第12回後半・第13回・第14回 薬学研究基礎

授業実施日：2018年7月4日（水）5限、7月11日（水）4・5限、
7月18日（水）4限・5限
担当教員：高倉喜信教授・柿澤昌准教授・高橋有己准教授・申惠媛准教授・
樋口ゆり子講師
対象学生：薬学部1回生83名（4クラスで編成）
場所：医薬系総合研究棟2階 講義室A・C、薬学部本館講義室22・23

授業の概要

今回は、第2回目の研究室訪問です。前回同様、学生自身でアポイントメントを取り、研究室で見聞きしたことを資料にまとめ、プレゼンテーションを行いました。

授業の場面

基本的には、前回と同じく、

- 研究室見学の概要説明、質問の準備（90分）（7月4日（水）5限）
- 研究室訪問（90分）（7月11日（水）4限）
- 発表資料の作成（90分）（7月11日（水）5限）
- プレゼンの練習（50分）（7月18日（水）4限）
- プレゼン本番（90分）（7月18日（水）5限）

という流れで行なわれました。以下では、前回との違いが見られ、印象に残った点に関して報告します。

印象に残った点

〈プレゼンの練習〉

前回と比べて、しっかり声に出してリハーサルをし、あるいは自分の話すことを各自がしっかり吟味する姿が多く見られました。また、質疑応答に備えて、想定される質問に対しての受け答えに関しても準備が行われていました。

<プレゼン本番>

今回は前回よりも、研究室での研究内容に焦点をしばって発表を行っているグループが多かったように思います。研究室の研究内容について、インタビューのみでは理解できなかった場合には、教授たちの英語論文にも目を通して、内容を理解しようとしているグループもありました。



また、前回と比べて、質疑応答に関して専門内容に関して突っ込んだ質問がなされていた点が印象的でした。発表内容に専門的に見て誤りがあるように見える場合には、そのように考えた理由を述べたのちに確認としての質問を行う学生が見られました。研究室で見たことをそのまま伝えようとしていた前回と異なり、自分たちの中でしっかりと理解しようとする姿勢が、発表している学生にも、聞いている学生にも見られたのは、素晴らしいことだと思いました。



SGD 演習全体を通して

SGD 演習では、コミュニケーションスキルやロジカルシンキング、生命倫理や研究マインドなど、様々なトピックが扱われてきました。この授業の中で、他の講義型の授業とは違い、自分たち自身が発信する機会を得た学生たちは、非常に

生き生きと授業に参加しているように見えました。また、こうしたいわゆるアクティブ・ラーニング型の授業において心配されがちな、「活動あって学びなし」という状態に陥らないために、教員が途中で学習内容のフィードバックを行ったりと、十分な配慮が行われていました。最後の研究室訪問の成果プレゼンテーションを見ても、表面的に授業に参加していたのではなく、この半期で彼らは授業で教えられたことを吸収し、確かに成長していたことが見て取れました。

このSGD演習は、京都大学の薬学部生を対象に作られたものではありませんが、その内容を見ても汎用性が高く、他の学部、他の学生集団でも応用可能なものと思われます。初年次における大学への適応が強調される現在の大学教育において、このSGD演習は、学生が大学での学びについて学び、大学における研究内容を知り、そして学生の学習コミュニティを形成することができるという点で、非常に有効な授業方法だと感じました。

記事作成者：高等教育研究開発推進センター研究員 長沼祥太郎

監修：高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代